



セルフロックングフックPG 取扱説明書

1.はじめに

- ◆ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読み頂き、内容をよくご理解頂いたうえで、ご使用ください。
また、必要と思われる部署や現場には必ず配布し、必要な場合にはいつでも参照できるようにしておいてください。
- ◆この取扱説明書にある項目は、危険の程度によって次の2段階に区分しています。

 危険	取扱いを誤った場合に、危険な状況となり、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと考えられる場合。
 注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況となり、使用者が傷害を負う可能性、または物的損害の発生が考えられる場合。

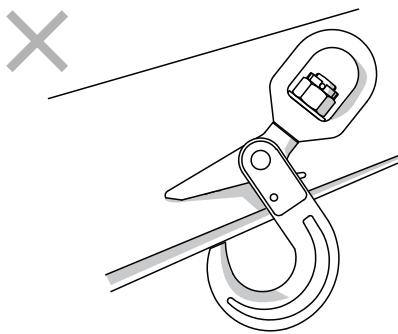
- ◆尚、『注意』に記載した事項でも、取扱い方法によっては、『危険』と同じ状況になる場合があります。

2.ご使用にあたって

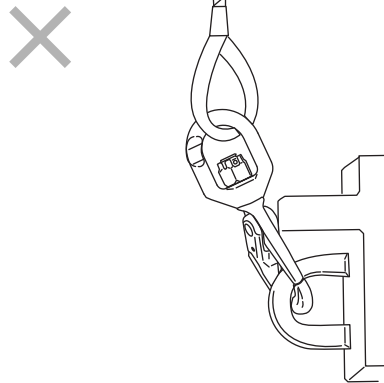
危険

- ◆使用荷重を確認し、使用荷重以下の荷重で使用してください。
使用荷重をこえて使用しますと事故の原因となります。また、衝撃荷重を掛けしないでください。
- ◆使用前点検で外観上不具合や各部に異常がないか調べてください。外観上不具合や各部の異常がある場合はご使用にならないでください。
点検要領及び廃棄基準については「セルフロックングフックPG 点検要領及び廃棄基準」を参照してください。
- ◆強度低下及び安全の低下を防止する為、下記の様な改造は行わないでください。
1. 機械加工等の追加、改造 2. 溶接 3. 熱処理 4. めっき処理 等
- ◆想定していない下記の様な箇所で使用しないでください。
1. 高温雰囲気(200℃以上) 2. 溶接作業周囲 3. 腐食性雰囲気(酸、アルカリ等) 4. 水中 5. 寒冷地で衝撃のかかる箇所 等
- ◆下記の図のような誤った使い方により、フックが曲がったり、トリガーやスプリングピンが破損する原因になります。

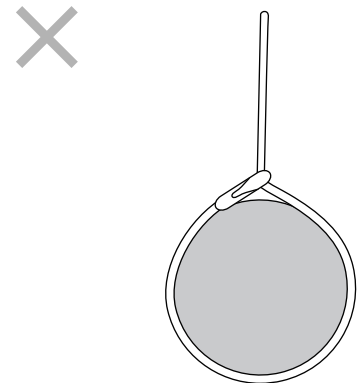
【誤った使い方の例】



ラッチを開いた状態で荷を吊り上げ



フックを固定するなどして、横方向へ無理に荷重をかける



荷に巻き付いた玉掛け用スリング(ワイヤロープ、繊維スリング、チェーンスリング等)を固定

注意

- ◆製品の投下、放り投げ、ハンマー等で強く叩く、重量物の下敷き等を行わないでください。

セルフロックングフックPG（固定式・スイベル式）点検要領及び廃棄基準

点検要領	点検頻度	点検箇所	点検方法	廃棄基準
①変形 	<input type="checkbox"/> 日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検	本体	目視	・元の寸法より変形しているもの
	<input type="checkbox"/> 定期点検	本体	計測機器 (ノギス等)	・口の開きLが元の寸法より変形しているもの ・フック先端の隙間Eが基準寸法を超えるもの 【E寸基準】 1.2t:2mm、 2t:2.5mm、 3.2t:3mm、 5.3t:3.2mm
②摩耗 	<input type="checkbox"/> 日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検	本体	目視	・著しい摩耗があるもの ・ロードピン表面に摩耗があるもの
	<input type="checkbox"/> 定期点検	本体	計測機器 (ノギス等)	・d、H寸を計測し、元の寸法より5%以上摩耗しているもの
③ねじれ 	<input type="checkbox"/> 日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検	本体	目視	・フック先端とラッチ先端のずれが半分以上あるもの
④作動 	<input type="checkbox"/> 日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検	スイベル トリガー ラッチ	目視 触感	・スイベル部分が、円滑に回転しないもの (固定タイプは除く) ・トリガーがスムーズに作動しないもの ・ラッチがスムーズに作動しないもの
⑤傷・き裂 	<input type="checkbox"/> 日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検	全体	目視	・き裂があるもの
	<input type="checkbox"/> 定期点検	全体	計測機器 (ノギス等)	・当たり傷、切り欠きがあるものはグラインダー等でなめらかに削り取り、その深さが元の寸法より5%以上減少するもの
			探傷検査 (必要に応じて)	・手直し後、磁気探傷検査、またはカラーチェックを行い、手直し後の寸法が、元の寸法より5%以上減少するもの
⑥アークストライク 	<input type="checkbox"/> 日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検	全体	目視	・アークストライクがあるもの ※アークストライクとは、溶接を開始する際などに、溶接棒を不用意に接触させてしまい、アークを発生させることによって生じるもの。
⑦腐食・さび	<input type="checkbox"/> 日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検	全体	目視 ブラシ	・使用上有害な腐食、さびがあるもの。
⑧刻印・シール	<input type="checkbox"/> 日常点検 <input type="checkbox"/> 定期点検	本体	目視	・メーカー名、等級、使用荷重(サイズ)、ロット番号が読み取れないもの

※摩耗率を求めるために、購入時にサイズを計測してください。 ※使用開始日より10年を超えるものは、交換を推奨します。

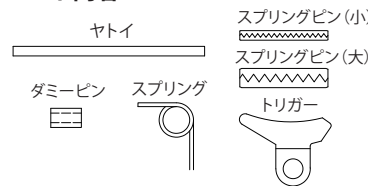
セルフロックングフックPG トリガーセット 交換要領書

セルフロックングフックPGのトリガーセットを交換する場合は次の要領で行ってください。

◆ 交換に必要な物

- ・交換用トリガーセット(本製品) ・ポンチ、ハンマー等 ・スプリングピン等が通過できる台

セット内容



◆ 交換手順

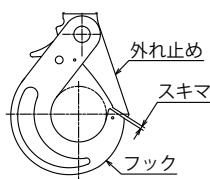
<p>① 取り外し</p> <p>ポンチ スプリングピン</p> <p>スプリングピンをポンチとハンマー等を使用して抜き取り、交換前のトリガーを取り外します。スプリングピンが抜けられない場合、交換不可となります。(製品自体に想定外の負荷がかかっている可能性があります。)</p>	<p>② 準備</p> <p>トリガー ダミーピン スプリング (短手) (長手)</p> <p>図の通り、トリガーとスプリングをダミーピンにてセットしてください。この時、スプリングの向きに注意して下さい。(スプリング短手がトリガーと接触、長手がフックと接触となります。)</p>
<p>③ 仮組み</p> <p>ヤトイ スプリングピン (大)</p> <p>トリガーをフックに押し込んだ状態でヤトイを通し、フックとトリガーを固定して下さい。(左図) その後、ヤトイに沿ってスプリングピン大を入れ、4~5mmたたき入れて下さい。</p>	<p>④ 挿入 (完成)</p> <p>スプリングピン (小)</p> <p>③で入れたスプリングピン大に小を入れ、ハンマー等でスプリングピンをたたき入れて下さい。ヤトイ、ダミーピンは、スプリングピン小に押し込まれ、フックの反対側から出てくる為、抜けるスペースが必要です。</p>

⚠ 注意

判定基準

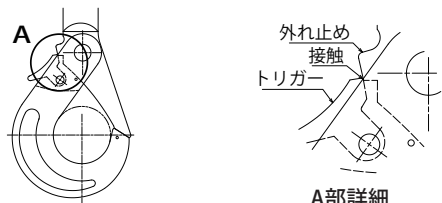
呼び	スキマ寸法 (mm)
1.2t	2
2t	2.5
3t	3
5.2t	3.2

I



- I. トリガー交換後、フック先端部のスキマ(左図)が判定基準を超えるものは、フックが変形しています。その為、使用不可となります。

II



- II. トリガー先端が、“フックの外れ止めに設けられたロック部分の出っ張り”に接触し、奥まで入らない場合があります。(左図A部詳細参照) これは本体の使用状況などによるもので、トリガーの不良ではありません。ただ稀にロック機能が正常に作動しない場合がありますので、下記内容にて調整して下さい。

【調整方法】

外れ止めの先端部をヤスリ等で平行に削り、調整して下さい。(左図中の調整時削り位置参照) 削りすぎると、フック先端部のスキマが大きくなりますので注意して下さい。

